

鮎貝歴史の散歩道

あゆ
か
い
れ
き

し

さん
ぽ
み
ち

鮎貝



白山権現と夫婦観音

悠久の時の流れの中で、
暫し立ち止まって耳を澄
ませば、古より此の地で
生きて来た人々の足音と
生活の息吹が聴こえ、目
を閉じて想いを回らせば
当時の面影が偲ばれる。
そんな歴史がたくさん
秘められている鮎貝の地
を訪ね歩いて見ませんか。
漂う文化の香りの中に
明日の夢が隠れているか
も知れません。

初 版

- ・発 行 鮎貝まちづくり推進委員会
- ・編 集 鮎貝まちづくり推進委員会歴史部会
- ・発行日 平成17年（2005年）10月1日
- ・協 力 鮎貝歴史を語る会

改訂版

- ・発 行 鮎貝地区まちづくり協議会
- ・発行日 令和3年3月1日
- ・印 刷 有限会社 梅津印刷

問い合わせ 鮎貝地区コミュニティセンター
TEL (0238) 85-2342
FAX (0238) 85-2341

29 鮎貝堰頭首工

実測川の豊富な水を農業用水に利用するため黒鴨、川前に取水口を設け深山、鮎貝、山口方面をうるおして、さらに鮎貝内町、箕和田方面へと流れる堰である。この開削年代を決める資料はないといわれているが、慶長中期には鮎貝堰が完成。鮎貝古物語の記述によると、御役屋用水確保のねらいでもあったとみえる。



鮎貝堰頭首工

13 白山森

白山森の麓には鮎貝盛宗（四代）が開基した常安寺建立跡で、山頂に白山権現の石堂がある。享保十六年（1731）常安寺は焼失した。現在、森に見られる三十三観音は寛政八年建立のもの。昭和六十一年夫婦観音が建立された。



白山権現の石堂



西国三十三観音



夫婦観音

3 相応院

相応院は真言宗豊山派。応永五年（1398）初代城主鮎貝成宗は相応院を開基、道智上人開山。道智は黒鴨から大井沢を経て湯殿山までの道を拓いた。「道智みち」と呼ばれている。境内に道智碑、院内にはゆかりの笈などの貴重な宝物が残されている。また、近くに伝説の「笈掛石」がある。



道智上人の墓

4 子守堂跡と子守桜

現在、置賜桜回廊の一つに「子守堂の桜」がある。樹齢約1020年、高さ19m、幹回り約7.15m。鮎貝城跡の一角にある。「子守堂」とは昔、桜の側に子守堂の祠を建て籠守大明神をお祭りした。本庄家と子守にまつわる伝説がある。



子守桜と子守堂

26 深山観音寺観音堂

（国指定重要文化財）
天台宗観音寺にある三間四方の阿弥陀堂造りで、本尊は千手観音。昭和二十九年解体のとき、太い円柱・舟肘木の曲線・虹梁の装飾の絵文・山門等が室町末期建立とわかる。白鷹町は石段を含めて周辺を史跡と指定している。



観音寺観音堂

28 蔵高院と即身仏

曹洞宗。天正十六年鮎貝宗信の臣、迎田甚兵衛、原田宇兵衛の建立という。当寺所蔵の大般若経は地方に希な延享版で立派なもの。また、旧日影部落からミイラが発掘され、蔵高院には「光明海上人」の即身仏が安置されている。

1 鮎貝城址

境内全体が本城跡である。応永三年（1396）初代鮎貝城主成宗が築城。土塁造り。本丸、二の丸、三の丸に分かれ内濠は川を利用した自然の濠だった。春日氏後、本城から出て、本庄氏までお屋敷、お役屋となった。土塁の下に、水をたたえた薬研濠が残っている。



薬研濠



本丸跡（現・八幡宮）



八幡宮・本殿

12 西口の六面幢

鮎貝西口と山口との堺に「南無阿弥陀仏」と彫った念仏碑と六面幢がある。宝暦六年（1756）「西口のはずれに六地藏ありこれが鮎貝にて石地藏の立ち始めなる由」とある。衆生の悩みを救うという六つの道。



六面幢

9 古八幡

鮎貝八幡川南側台地一帯を古八幡と呼ぶ。明治三十一年移築まで八幡神社が建っていた。創建は古く、源義家が戦勝祈願して建てたと伝えている。また赤間家の先祖が別当神主であった。



古八幡

24 切支丹生理の地

寛永年間（1624～）春日氏時代、高岡は切支丹宗が盛んになり寺が他出した。幕府の取締が厳しくなると宗門改めの説得をし、聞き入れない信者を生埋めの刑にしたと伝えられており、後に供養として地蔵を建てたといわれている。



切支丹生理め地蔵

19 瑞岩寺

曹洞宗。寛政元年（1460）鮎貝成宗開祖、高玉瑞龍院二世実庵祥参禅师開山。境内には、稻荷堂のほか、明治以来、戦没者英霊供養碑がある。箕和田部落の背後、台地上に潭龍和尚碑があり、瑞岩寺十七世で水害から箕和田村を救ったと伝えられる。今も、五月十六日に碑前で川祭りの祈禱をし、水の安全を願う。

20 潭龍和尚碑



潭龍和尚の碑

1 別表神社鮎貝八幡宮

鮎貝八幡宮は明治三十一年に古八幡より、ここ鮎貝城址に移築された。現本殿は天保十五年（1844）の造営。周囲の彫刻は江戸彫師作。（本殿は県指定文化財）境内には繁長八幡（本庄家の先祖）や寛保元年（1741）に建立された鐘楼がある。例祭には七五三獅子舞、神楽の舞等が奉納される。



八幡宮・本殿

7 大林寺（本庄家の墓）

大林寺墓地には、鮎貝最後の城代本庄氏と家臣と一般の人々の墓がある。寛文五年、初代本庄政長公が鮎貝入城してから明治初年まで鮎貝の地を治めた。政長公の墓は、福島市長楽寺にあり二代英長公から八代の一族の霊がこの地に眠っている。



本庄家の墓

6 鮎貝観音堂（飯詰）

鮎貝大町から山口新地へ向かう登り口の右側、石段を登ると正面に鮎貝観音堂がある。昔、田尻村堺の飯詰台にあり飯泉観音とも言われる。置賜三十三観音中、第十六番札所で現地には元禄九年に移した。その後、二代目泉蔵院清覚が再興したという。更に、危険回避のために現在地に移された。



鮎貝観音堂

23 高岡観音堂と石碑群

置賜三十三観音中、第二十七番札所。本尊十一面観音。境内にも貴重な石碑が多い。中でも三彭清浄碑は庚申信仰碑で珍しい。本堂東側に文政二年の南無阿弥陀仏、湯殿山合体碑がある。鉄門、蓮海の名があり、三山信仰にとって貴重という。



高岡観音堂

22 縄文遺跡と 21 小四王原神社

実測川から取水し、町水道として浄水場が建設された。その時、縄文時代の土器や、住居跡が発掘され、小四王遺跡として復元された。近くに小四王神社が北向きに立つ。昔、越後から入って来た古志王族の守護神と伝えられる。



小四王原神社

17 和田東潮句碑と赤坂種蒔桜

鮎貝赤坂の種蒔桜は置賜桜回廊の一つ。桜の根元に「鼠尾草の一本分けやはしつぼね 無路庵東潮」の句碑がある。東潮は鮎貝桜館和田家の祖で、元禄の頃、江戸で活躍した俳人。



和田東潮句碑

赤坂種蒔桜

16 赤坂薬師堂跡の百体庚申

赤坂薬師堂跡に大正十年建立の百体庚申塔がある。



百体庚申

15 常安寺

岩鷲山常安寺は曹洞宗。鮎貝盛宗開基、瑞龍院三世の禅师開山、永正二年白山森山麓に建立と伝える。享保十六年火災焼失して現地に移転。寺には文書、武具など貴重な歴史資料が残されている。

18 常光寺層塔（県指定文化財）と中条三盛の墓

常光寺は浄土宗。桐町内の常光寺に七重層塔があり、総高3.54m、0.73m四方の台石に立つ。県指定文化財。また、境内に上杉領初代中条三盛の墓碑。寺は五代鮎貝城主宗重の重臣、宮城助左衛門高継の開基で墓がある。



中条三盛の墓



常光寺層塔

11 幸寿ヶ原

幸寿ヶ原は天正十五年（1587）に伊達政宗の軍と六代鮎貝城主宗信の軍と戦った古戦場跡といわれている。宗信は破れ、鮎貝時代は終わった。

鮎貝歴史の散歩道

あゆ かい れき し さん ぽ みち

鮎貝



凡例

- 平地
- 高台
- 舗装路
- 未舗装路
- せまい道路
- 河川、水路
- 目印的建物
- 線路
- 石碑

● 史跡・名所一覧 ●

○・ウラ面に説明あり ●・説明なし

- | | |
|-------------------------|----------------|
| ① 鮎貝城址・鮎貝八幡宮 | ②⑩ 潭龍和尚碑 |
| ② 御役屋跡周辺 | ②⑪ 小四王原神社 |
| ③ 相応院 | ②⑫ 浄水場と縄文遺跡 |
| ④ 子守堂跡と子守桜 | ②⑬ 高岡観音堂と石碑群 |
| ⑤ 鮎貝小学校跡（向福寺跡） | ②⑭ 切支丹生理の地 |
| ⑥ 鮎貝観音堂（飯詰） | ②⑮ 深山手漉き和紙 |
| ⑦ 大林寺（本庄家の墓） | ②⑯ 深山観音寺観音堂 |
| ⑧ 中丸（愛宕神社と石碑群） | ②⑰ 太松院 |
| ⑨ 古八幡 | ②⑱ 蔵高院と即身仏 |
| ⑩ 赤間氏墓地と大壇街道 | ②⑲ 鮎貝堰頭首工 |
| ⑪ 幸寿ヶ原（幸寿ヶ古戦場・飯詰台） | ③⑰ 後庵桜 |
| ⑫ 西口の六面幢（六地藏・鮎貝成宗墓所・西口） | |
| ⑬ 白山森 | |
| ⑭ 教育の森 | ◎神明町 |
| ⑮ 常安寺 | 舟場・壇廻りと船着場・六地藏 |
| ⑯ 赤坂薬師堂跡の百体庚申 | ◎谷町 |
| ⑰ 和田東潮句碑と赤坂種蒔桜 | 武家屋敷・弁天堂・北谷口坂 |
| ⑱ 常光寺層塔と中条三盛の墓 | ◎新町 |
| ⑲ 端岩寺 | 足軽屋敷・給人町 |